

幼 児 の 教 育

昭 和 三 十 年 四 月

新らしい子等に蘇る先生

倉 橋 惣 三

自然は春を迎へて蘇る。

自然を蘇らすものは自然である。人を蘇らすものは人でなければならぬ。先生は新しい子等を迎へて蘇る。

新來の子等は屢々面倒である。熟練の先生にさへ往々にして扱ひかねる。しかも、それは子等の罪ではない。先生に馴らされてゐないだけである。先生の子等として順應させられてゐないだけである。つまり、先生がその子等の前に、新しく出直さなければならぬからの話である。

先生の経験と熟練とは貴い。しかし、その経験と熟練には、折角の先生を手慣れた容易さに鈍らせるものが伴はないと限らない。甚だしきは、先生に型の殻をさへかぶらせないとも限らない。その先生に全く無斟酌にぶつかつて來るのが新來の子等である。先生をもう一度新らしい先生にかへらせるのである。

自然は春を迎へる度びに蘇る。先生は新らしい子等を迎へる度びに蘇る。四月である。